

## 股関節唇損傷（こかんせつしんそんしょう）とは？

股関節唇とは、股関節の屋根のまわりを取り囲む柔らかい軟骨で、内部に神経が走っているため、亀裂が入ると痛みを感じます。また、関節唇損傷が生じると股関節が安定しなくなってしまうと考えられています。

### ✓股関節唇損傷の症状

股関節唇が損傷を受けると、痛み、違和感、引っかかり感などの症状が出ます。

日常生活では、あぐらをかき、靴下を履く、爪を切る、立ち上がる、車や自転車の乗り降り、足を組む、長時間椅子に坐っている状態、寝返りの際等に痛みや違和感を生じることがあります。

痛む場所は股関節前面から横にかけての痛みが多く、患者さんに「どこが痛いですか？」とお聞きすると、「Cサイン」といって、手で「C」の形にして、下図のように股関節前面と横を同時に押さえることが多いです。



### ✓股関節唇損傷の診断

股関節唇損傷は症状と医師の診察、画像検査(単純レントゲン検査、MRI 検査)、股関節への局所麻酔薬(痛み止め)注射で総合的に診断いたします。

もともと股関節の骨の形に異常があり、それが原因となって股関節唇損傷が起こることも多いため、単純レントゲン検査で詳しく検査する必要があります。例えば、股関節を曲げたときに骨同士がぶつかる「大腿骨寛骨臼インピンジメント(FAI: Femoroacetabular impingement)」があげられます。重要なことは、この大腿骨頭のでっぱりは軽度な異常ですので、通常の単純 X 線撮影(レントゲン検査)では問題ないと言われて見逃す可能性があり、Dunn view (ダンビュー)といわれるような特殊な撮影方法での検査で、はじめて診断がつくことがあります。また、MRI でも通常の撮影方法ではなく、股関節唇に着目した特殊な撮影方法でのMRI検査をしないと診断がつかないことがあります。

### ✓股関節内注射

股関節唇損傷の痛みが出る部位は股関節前面が一番多いですが、股関節外側や、臀部(おしり)、大腿部(ふともも)、膝周囲、腰痛、下腹部などに痛みが出ることもあり、ときに診断が難しい場合があります。腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア、仙腸関節障害、鼠径部痛症候群(グロインペイン症候群)などと言われた診断の中にも、股関節唇損傷が隠れていたり、影響を与えたりすることがあります。

症状、診察、画像所見だけで股関節唇損傷と診断がつかない場合も多く、股関節唇損傷が痛みの原因と診断するためには、股関節への局所麻酔薬(痛み止め)注射が最も有効です。当院では細い針と超音波を用いて股関節内へ安全で確実に注射をしています。注射後、すぐに痛みが改善する場合は、痛みの原因は股関節唇損傷であると診断しています。

### ✓股関節唇損傷への治療方法(保存療法)

股関節唇損傷と診断された場合、まず保存療法(手術以外の方法)を実践します。当クリニックでは患者さんお一人お一人の状態に応じた、最適な治療方法を、科学的根拠(エビデンス)に基づいて、股関節治療に特化した理学療法士、セラピストが医師と連携して、治療にあたります。股関節唇損傷自体が自然に治ることはほぼ無いので

すが、約 8 割の患者さんは手術を必要とせず、股関節の機能診断とリハビリテーションにて股関節の痛みや機能の改善が得られます。

また、ご自宅でも当クリニックでご提案させていただいたリハビリテーションを継続していただくことがとても大切です。日常生活では、股関節が深く曲がるような動作やあぐらをかくように股関節を開く動作を避け、股関節に負担がかからないようにすることが大切です。

また、股関節内の炎症を軽減する目的で股関節内にステロイド注射やヒアルロン酸注射をすることもあります。注射をすることで、リハビリテーションの成果がより上がることがあります。

保存療法でよくなる方が少なくありませんが、数カ月たっても改善しない場合があり、手術を検討した方やよいかもしれません。

### **✓股関節唇損傷への手術療法**

もし手術が必要な場合は、提携医療機関で手術加療を行います。

股関節唇損傷への手術治療の 1 つに股関節の内視鏡手術(股関節鏡視下術)があります。股関節の外側に小さい穴を2~3カ所作り、内視鏡を入れ、損傷した股関節唇を縫合する股関節鏡による手術です(股関節鏡視下股関節唇形成術)。

股関節外来を担当する宇都宮医師、齊藤医師は国内では非常に少ない股関節の内視鏡手術(股関節鏡視下手術)の専門医(日本股関節学会股関節鏡技術認定取得医)で、また国内外で十分な経験と実績を積んだ国内有数の股関節外科医です。最新のバイオメカニクス研究や解剖学研究の経験を元にした、最小侵襲の股関節鏡視下手術を得意とします。

股関節治療に特化した経験と実績が豊富な専門医、リハビリスタッフが一丸となって、股関節痛に悩むすべての患者さんの全快に向け、全力で股関節治療に当たります。股関節痛や股関節に関してお困りの患者さんは、ぜひ山手クリニック股関節専門外来をお訪ねください。

## —股関節唇損傷の原因となる疾患別の解説—

### 大腿骨寛骨臼インピンジメント(FAI: Femoroacetabular impingement)とは？

大腿腿骨の股関節側は、ボール状の「大腿骨頭」と筒状の「大腿骨頸部」でできています。大腿骨頭と大腿骨頸部の境目は通常、くびれていますが、この部分に Cam 変形という出っ張りができる人がいます。16 歳ごろに形成されると言われており、スポーツ選手に多いのですが、発生する原因の詳細はまだ分かっていません。この Cam 変形があると、股関節痛や股関節唇損傷、変形性股関節症の原因となります。このように余分な骨のために寛骨臼と大腿骨がぶつかる状態を FAI といいます。

治療の基本は保存療法で、患者さんが望む生活レベル・スポーツレベルに復帰できる方が多いです。ただ、手術加療が必要な場合は提携医療機関で関節鏡手術を行います。

### 寛骨臼形成不全(かんこつきゅうけいせいふぜん)とは？

股関節の受け皿側(屋根側)である寛骨臼(かんこつきゅう)が、生まれつき浅い状態のことを寛骨臼形成不全(または臼蓋形成不全)と呼びます。寛骨臼形成不全があると、股関節唇に負担がかかり、長年の負担が股関節唇や関節軟骨のダメージに繋がってしまうが分かっています。

治療の基本は保存加療で治療を行います。手術加療が必要な場合、関節鏡手術が適応となるのは比較的軽度の寛骨臼形成不全の場合で、重度の寛骨臼形成不全の場合は、寛骨臼回転骨切り術など別の治療法をご提案させていただきます。軟骨の損傷が大きい場合は(変形性股関節症に至っている)、人工股関節手術をお勧めさせていただきます。